



平田 要

府立高校の再編整備 方針案を受けて

一、府立高校の再編整備方針案 を受けて 二、住宅地まで迫る獣害被害

問 ささゆり学園から能勢分校への入学者数の割合について問う。

答 令和2年度28.6%、3年度25.5%、4年度29.0%となっている。

問 再編整備計画案は、「学校の特色」、「地域の特性」、「志願状況」から判断すると示されている。高校と行政の連携でグローバル人材の育成について問う。

答 高校生が海外視察を行い豊かな国際感覚を身につけていただくため調整を進めている。

問 ささゆり学園から入学者志願者数を増やすことについて問う。

答 ささゆり学園と能勢分校は、様々な機会を通じて連携している。取組みを通じて、能勢分校の良さを知らしめることにより能勢分校で学びたい意欲が高まるよう努めている。

問 令和3年度スタートの里山留学生との状況と取り組みについて問う。

答 現在3人が通学している。引続き、能勢分校の特徴等のPRを行い志願者の増加に努める。



住宅地まで迫る獣害被害

問 令和3年度のシカ・イノシシの緊急捕獲頭数について問う。

答 685頭である。

問 有害捕獲活動の取組みにかかわらず近年シカが増加傾向にある。要因を問う。

答 シカの捕獲頭数は大阪府内で最も多く、平成30年度以降増加傾向が続いている。

森林の手入れがされず山の中の餌が少なくなり、農作物を食べるようになり、繁殖しやすいことが要因である。

問 シカ等を住宅地内に降りさせないための町の対応を問う。

答 捕獲活動を通じた追い払い効果を強化する対策を、令和5年度から猟友会の協力により実施する。

一般質問



長尾 義和

乗合タクシーについて

問 乗合タクシーの実証運行から8ヶ月が経過する。利用状況について令和5年3月末の目標達成は厳しい。本格運行に向けた課題を問う。

答 広報紙などによる周知や停留所の追加などにより、徐々に利用者は増加している。引き続き利用状況をモニタリングし、必要に応じて運行内容を見直していく。

乗合タクシー利用状況(令和5年2月末現在)

区分	運行回数	乗車人数	運行日あたり利用者数
R4.7~R5.2	424回	540人	4.32人/日
目標値			20人/日
達成率			22%
区分	1便あたり利用者数	稼働率	新規利用者
R4.7~R5.2	1.27人	64.80%	40人
目標値	1.5人	100%	85人
達成率	85%	65%	47%

一、乗合タクシー実証運行を4ヶ月 延長、4月から当日予約OK 二、公有財産の有効利用と企業立地促進

問 利用増進を図るため、どのような改善が必要と考えているか。

答 前日までの予約を、4月から当日午前10時までの電話で午後1時から利用できるよう改善を予定している。

問 当初、今年の7月から本格運行に入ると聞いていたが、11月まで延長する理由は。

答 昨年11月に停留所を増やしたことで1年間を通して研究したいことと、当日予約も踏まえて判断したいため延長する。

問 路線バスには、これまで多額の補助を行っているが限度もある。利用見込みの推移はどうか。

答 年々減少している。

問 公有財産の有効利用と企業立地促進について

問 平成19年6月に同様の一般質問をしたが、その後16年が経過する。公有財産、特に普通財産は、有効に活用されていない。

答 民間活用できればと考えるが、普通財産のほとんどが市街化調整区域にあり、他の規制もある。

問 普通財産を積極的に周知し、企業誘致を図るのにはどうか。

答 利活用が可能な土地を事前に周知し、企業誘致を図ることは有効な方法と考える。